

腸管出血性大腸菌感染症について

愛知県（名古屋市除く）の平成 16 年 1 月から 8 月（第 3 週まで）の腸管出血性大腸菌感染症の報告数は 80 件（昨年同時期：30 件）で、6 月は 17 件、7 月は 25 件、8 月は 29 件と増加してきています。例年 6 月から 9 月にかけて報告数が多くなる傾向がありますので、十分な手洗い、食材を十分に加熱（75 1 分以上）するなどの注意が必要です。詳しい情報については、

愛知県衛生研究所のホームページ(http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/3rui_1.html)

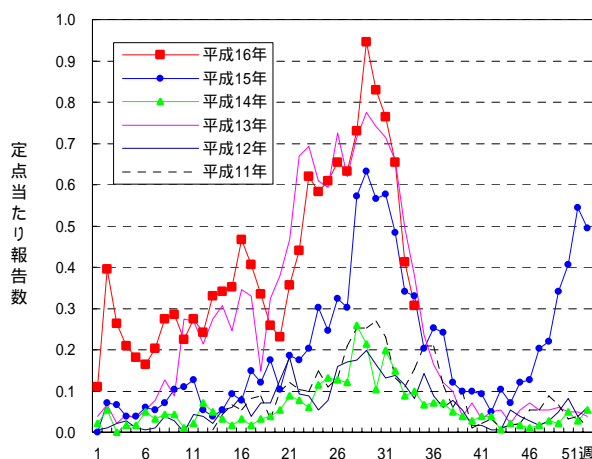
または、

「あいちの食品衛生」ホームページ(<http://www.pref.aichi.jp/eisei/aichisyokuhin.html>)

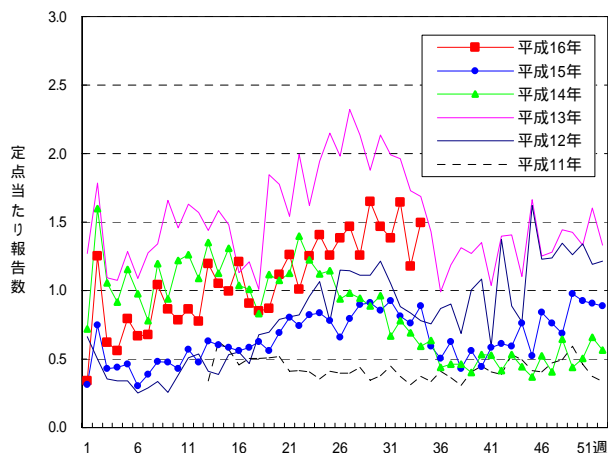
をご覧ください。

流行状況

咽頭結膜熱



流行性耳下腺炎



疾患名	前週	今週	備考
流行性耳下腺炎	1.2	1.5	耳下腺の腫脹を主症状とするムンプスウイルス感染症
咽頭結膜熱	0.41	0.31	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症

定点当たり報告数

↘ 減少
 → 横ばい
 ↗ 増加

(関連リンク)

愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

予防接種について (http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/yobou_week.html)

風疹について (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/huusin.html>)

全国状況(感染症発生動向調査週報):厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - ホ - ムペ - ジ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) をご覧ください。

WHO 疫学週報 (<http://www.who.int/wer/2004/en/>)

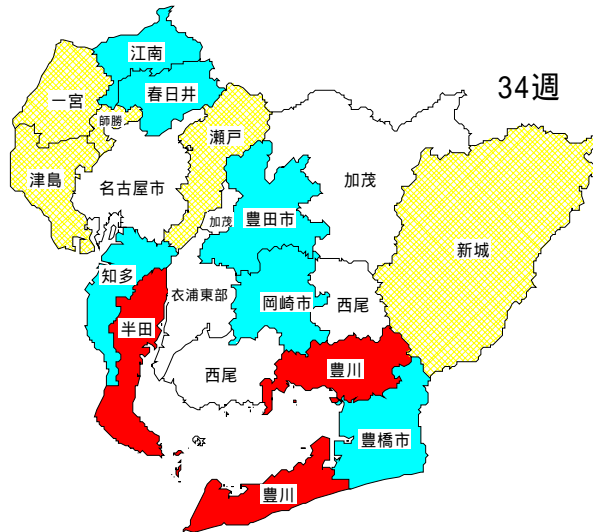
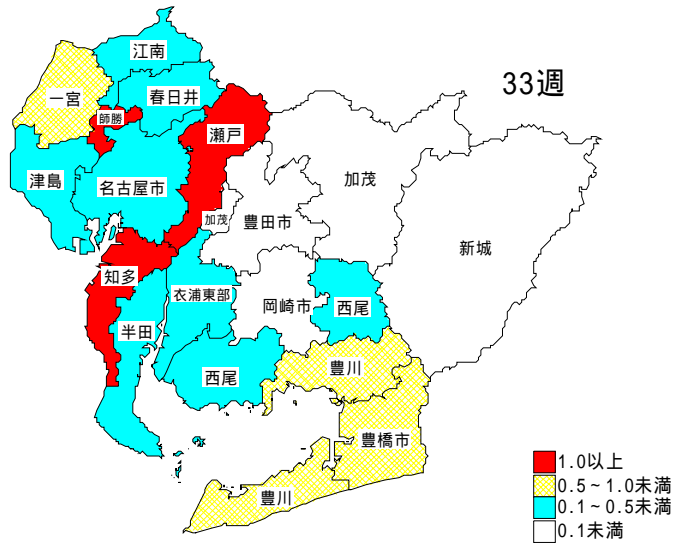
CDC 疫学週報 MMWR (<http://www.cdc.gov/mmwr/>)

(作成)

愛知県感染症情報センター 連絡先:052-910-5619

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

咽頭結膜熱の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	34週	定点 当たり	33週	定点 当たり		34週	定点 当たり	33週	定点 当たり
名古屋市	6	0.09	8	0.11	岡崎市	1	0.14	0	0.00
瀬戸	6	0.67	11	1.22	衣浦東部	0	0.00	5	0.45
津島	6	0.86	2	0.29	西尾	0	0.00	2	0.40
師勝	2	0.50	8	2.00	豊田市	3	0.38	0	0.00
一宮	7	0.58	10	0.83	加茂	0	0.00	0	0.00
春日井	3	0.33	4	0.44	豊橋市	3	0.38	5	0.63
江南	1	0.17	1	0.17	豊川	10	1.25	5	0.63
半田	6	1.00	1	0.17	新城	1	0.50	0	0.00
知多	1	0.14	13	1.86					

○ は今週警報が出ている保健所(市)です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによる咽頭結膜熱の流行発生警報は保健所(市)定点当たり1.0人を越えた場合に発生し、0.1人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

10歳女 カンピロバクター腸炎
まだムンプス小流行続いています。

【一宮市 あさのこどもクリニック】
病原性大腸菌O1 1歳男、2歳男、5歳女
病原性大腸菌O6 5歳女、15歳男
伝染性膿痂疹が例年以上に多く丹毒の患者さんも出ています。

ヘルペスウイルス感染症も増加中です。
アデノウイルス感染症は減っていません。

マイコプラズマ肺炎は、落ち着いたように見えますが、台風が多いためか喘息発作の患者さんが非常に多い。原因としては、マイコプラズマ感染症以外の呼吸器感染症が関与しているのは確かですが病原菌は未だ特定していません。

【尾西市 城後小児科】

16歳男 プレジオモナス・シゲロイデスとカンピロバクターの混合感染（キャンプ場で釣った魚を食べたとのこと）

38歳女、6歳男、4歳女（カンピロバクターの家族感染例あり。O126の混合感染）

【犬山市 武内医院】
伝染性膿痂疹が多くみられています。
流行性耳下腺炎の流行続いています。
ヘルパンギーナは少なくなりました。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】
水痘、ムンプスまだつづいています。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
2歳男 カンピロバクター

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

アデノウイルス感染症が少しみられます。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】
ヘルパンギーナ流行は終了したようです。
6歳女カンピロバクター腸炎（著明な下痢症状があったが経過は良好）

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
今週はヘルパンギーナがよくみられました。

【春日井市 かちがわ北病院】
ムンプスなくなりません。

【春日井市 竹内医院】

5歳のマイコ肺炎、ヘルパンギーナ・ムンプス少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】
手足口病少数あり
細菌性腸炎あり

【小牧市 小牧市民病院】
胃腸炎が増えてきたようです。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

3歳女 サルモネラO8

6歳男 病原性大腸菌O128 VT(-)、
サルモネラO4

6歳男、6歳女 カンピロバクター
【岡崎市 にいのみ小児科】

10歳女 病原大腸菌O6

2歳女 病原大腸菌O1

6歳男、10歳女 カンピロバクター

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
伝染性膿痂疹の子が多いです。

【知立市 宮谷クリニック】
サルモネラO18 3歳男

サルモネラO4 8歳女

病原大腸菌O25

【西尾市 やすい小児科】

サルモネラ腸炎O9 2歳女、32歳女

【西尾市 山岸クリニック】
病原性大腸菌O1 VT(-) 1歳女、8歳男

サルモネラO4 3歳女
病原性大腸菌O15 VT(-) 6歳男
病原性大腸菌O18 VT(-) 8歳男
カンピロバクター 13歳男

【幸田町 とみた小児科】
まだムンプスが流行中です。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

流行していた咽頭結膜熱もお盆休みに入り、減少してきた。

【田原市 かわせ小児科】

一 ～ 三類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

パラチフス

<関連リンク> 二類感染症

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-6>

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備 考
1	豊田市	50	男	8/11	8/16	8/18		推定感染地域 インド
2	豊田市	45	男	8/10	8/16	8/18		推定感染地域 インド
3	豊田市	55	男	8/10	8/14	8/18	疑似症	推定感染地域 インド
*	豊田市	29	男	8/2	8/6	8/9		推定感染地域 インド 33週分追加報告

腸管出血性大腸菌感染症

<関連リンク> 三類感染症ってなあに？

(http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/3rui_1.html)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備 考
1	豊田市	9	女	8/11	8/13	8/16	O157 VT1(+) VT2(+)	
2	豊田市	56	男	8/12	8/14	8/18	O157 VT1(+) VT2(+)	
3	豊橋市	2	女	8/12	8/13	8/17	O26 VT1(+)	
4	豊橋市	46	男		8/18	8/20	O26 VT1(+)	

5	一宮	76	女	8/14	8/16	8/20	O157 VT1(+) VT2(+)	
6	春日井	20	男	8/14	8/17	8/21	O157 VT1(+) VT2(+)	
7	豊川	41	女	8/13	8/14	8/18	O157 VT1(+) VT2(+)	
8	津島	34	女	8/15	8/16	8/19	O157 VT1(+)	
9	西尾	31	女	8/13	8/14	8/18	O157 VT1(+) VT2(+)	
10	江南	17	男	8/13	8/14	8/21	O157 VT1(+) VT2(+)	
11	知多	1	男		8/18	8/22	O157 VT1(+) VT2(+)	
12	知多	74	男	8/12	8/13	8/16	O157 VT1(+) VT2(+)	
13	知多	21	女	8/6	8/10	8/16	O157 VT1(+) VT2(+)	
*	一宮	9	女	8/17	8/18	8/24	O26 VT1(+) VT2(-)	35週 報告分

四類・五類（全数把握）感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

アメーバ赤痢 1例（推定感染地域：インドネシア）

梅毒 1例（早期顕症）

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

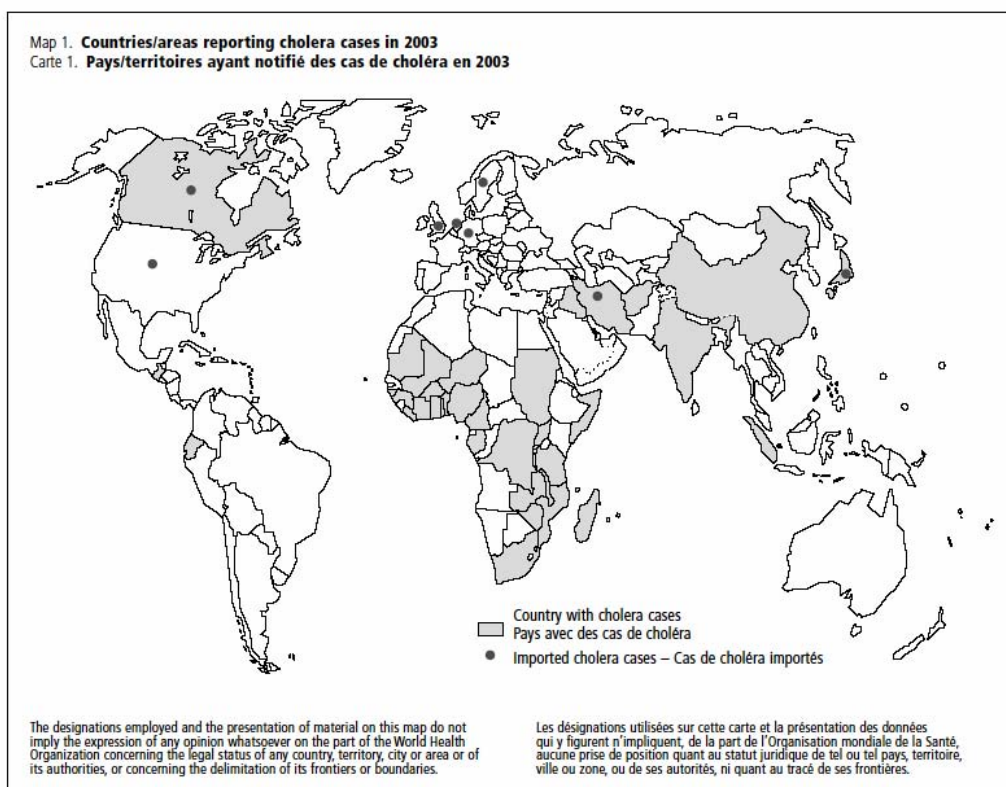
夏休みも終わろうとしています。小児科外来では「宿題済んだか？」と聞いてみたり、「感想文書いたか？」と言って嫌われていたものですが、最近は感想文なんて流行らないようです。いつも貴重な情報を有難うございます。8月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からは感染症は全般に少ないが咽頭結膜熱、マイコプラズマ感染症、ムンプスが比較的多く、ムンプス髄膜炎を含む無菌性髄膜炎の増加が目立ち、マイコプラズマ肺炎が一定数入院、百日咳の入院が散発的にあり、第一日赤加藤先生からは7月に増加した水痘が8月になっても継続的にあり、城北病院渡辺先生からは胃腸炎が散見、殆どがウイルス性で、たまにカンピロやサルモネラ陽性の細菌性大腸炎あり、ムンプス小流行、髄膜炎がたまにあるが例年にくらべて明らかに少ない、千種区今枝先生からは感染症は少なく、膿痂疹ぼつぼつ、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎5名(サルモネラO9、病原性大腸菌O1、O6、O18、カンピロバクタ-)、咽頭結膜熱2名、A群溶連菌咽頭炎1名、ムンプス1名、アデノウイルス性咽頭炎で2名、入院例では扁桃炎の高熱で要入院5-6名、咽頭結膜熱2名、マイコを含む肺炎2名、感染性腸炎2名、中京病院柴田先生からはヘルパンギ-ナや手足口病などの夏かぜは殆どなく、ムンプスが少々、髄膜炎流行中、労災病院山田先生からは水痘、ムンプス、膿痂疹、1-2日間の高熱だけのウイルス感染症、無菌性髄膜炎、細菌性胃腸炎(カンピロ、大腸菌O1、O18、カンピロ)、マイコプラズマ肺炎、気管支喘息重積発作が目立つ、大同病院水野先生からは外来は少ないがムンプスと急性胃腸炎が多く、ムンプス髄膜炎(年少児で耳下腺腫脹がなく抗体陽性例あり)急性胃腸炎、サルモネラ等の細菌性腸炎も多く毒素型では検査データ上ウイルス性との鑑別困難な例あり、とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは感染症は極めて少ない中、カンピロバクタ-腸炎1例、水痘とムンプスが散発中、江南市昭和病院小児科からはムンプス、水痘、頭痛を伴う発熱とマイコプラズマ肺炎、ウイルス性髄膜炎、百日咳の入院目立つ、常滑市民病院上田先生からは感染性腸炎(ウイルス性、細菌性)、咽頭結膜熱、手足口病、突発性発疹が目立ち、入院でも感染性腸炎、咽頭結膜熱、突発性発疹が目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはムンプスが多く入院患者は少ない、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎が少しづつ、アデノ陽性の急性扁桃炎が時々(週1-2例)、碧南市永井先生からは園児を中心にムンプスが目立つ、豊橋市からは細菌性腸炎、ウイルス性気管支炎、ムンプス、手足口病など少数例あり(市内長屋先生、宮澤先生)とのお手紙でした。有難うございました。

2004 年 7 月 30 日（79 巻 31 号）<http://www.who.int/wer/2004/wer7931/en/>

コレラ。2003 年世界のコレラ：コレラ菌によるコレラは大洋州以外の全世界に分布（地図参照）03 年の報告で 45 カ国、111,575 例（1,894 死亡）の届出があった。報告例数は全体として減少、罹患死亡率は 1.74%と低下しているがハイリスク地域では罹患死亡率 41%と高い。地区別にはアフリカが全例の 96%、南北アメリカとアジアは減少、欧州は輸入例だけで、02 年に比し 03 年は減少傾向である（グラフあり、国別一覧表あり）。以下、地域別のまとめ。1 アフリカ：29 カ国が報告。108,067 例（前年比 21%減）、罹患死亡者は前年比 50%減となっているが問題点は届出が不完全で過小評価も考えられる。国別ではコンゴ、リベリア、モザンビーク、ソマリアの 4 カ国でアフリカ地区の 80%、モンロビアとソマリアの内戦による国内難民が問題で特にソマリアでは前年比の 4 倍の増加、西アフリカではマリ・ニジェール河流域で 03 年 8～11 月に流行あり。2 南北アメリカ：90 年代の流行は各国の努力で激減、03 年はエクアドルとグアテマラだけで米合衆国とカナダに輸入例あり。3 アジア：03 年の届出数は前年比 22%減。インドで 2,893 例（死亡 2）、イラク・バスの発生は制圧、92 年末ベンガル湾沿岸で発生、緊急問題となったコレラ菌 O139 型は同地区検出コレラ菌の 15%を占め（中国では 223 の菌陽性者のうち 185 例が O139 型）検査室診断が重視されているが O139 型の大流行は発生していない。4 欧州：輸入例 12 例のみで、大洋州では発生なし。5 コレラワクチン：弱毒変異株経口生ワクチンや不活化コレラ O1 株菌体 + 精製コレラ毒素の組替えワクチンなど三種類の試作ワクチン開発、接種試験が進められている。

7 月 23 - 29 日届出。コレラ：リベリア、ニジェール、タンザニア、ジンバブエ。



2004年8月6日(79巻32号) <http://www.who.int/wer/2004/wer7932/en/>

ポリオ。世界根絶作戦：04年7月31日、安全性に関する流言蜚語(デマ)の為ほぼ12ヵ月中断されていたポリオワクチン接種をナイジェリア・カノ州が再開した。04年9-11月には全国一斉接種を実施予定。この間、ポリオ野生株は隣接10ヵ国に広がりナイジェリア本国では04年1-8月に430例(前年同期例)が届出された。この増加と広がりに関してWHOが発表した勧告：1 現時点における野生株ポリオの発生・国際的伝播に対する施策の勧告。 国際的な伝播源となっている国々・地域：a ポリオワクチン定期接種の普及と急性弛緩性麻痺例のサーベイランス強化。b 全国一斉接種を5歳以下の小児の90%に普及する活動。 その他の国々：a 定期接種強化。b 旅行者を対象としたワクチン接種。2 国際的な流行が続く場合の勧告。伝播源地区：a 地区住民は国内旅行前に定期の接種回数を済ませる。定期接種終了から5年以上経過していれば、追加接種。b 地区住民は国際旅行前に定期接種終了していること。定期接種終了から5年以上経過していれば、追加接種。 その他の国々：a 輸入のリスクを検討する。b 定期接種率の低い国々では定期接種率向上の努力と全国一斉投与。

鳥インフルエンザ。04年7月30日時点：病原性の高いA(H5N1)型ウイルスの流行が中国、インドネシア、タイ、ベトナムで鶏や家鴨から見つかっており、相互の直接の疫学的関係がないことからこれらの地区ではA(H5N1)ウイルスが広く分布し定着している事が考えられる。鳥からヒトへの直接伝播、ヒトにおける大流行が懸念されており、ヒトの感染が発生している報道もあるが確認されていない。こうした状況からWHOは04年7月30日、バンコクで専門家会議を開催し、今後の国際的監視と各国における対策強化を呼掛けている。

新生児破傷風。インド・アンドラプラデッシュ州(注：インド中央部、デカン高原)：調査員による調査用紙を用いた約3万家族の聞き取り調査。今回の妊娠中に破傷風トキソイド追加接種2回が70%弱、新生児死亡62例のうち新生児破傷風による死亡ゼロ。

アフリカトリパノゾーマ症。最近の状況：ツェツェ蠅が媒介するトリパノゾーマ原虫感染症。家畜や野生動物など宿主域は広い。森林や河川、湖水、湿地に媒介蠅は広く分布、トリパノゾーマの分布は局地的。サハラ砂漠南縁の諸国と東アフリカ、南アフリカ諸国に常在地区散在。臨床的には急性に経過する例と慢性例があるが脳症、意識混濁ではじまる「睡眠病」。99年に約4万5千例の報告があるが実際はこの10倍と推測される。治療は抗原虫剤、急性期と慢性期で使い分ける。予後不良。WHO国際チームが活躍中。

6月11-24日届出：なし。

愛知県感染症情報

2004年第34週(平成16年8月16日～8月22日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	0	0	50	38	303	60	33	24	111	4	4	65	1	197	1	21	0	2	3	0	0
～6ヶ月					3	4	1		10					1							
～12ヶ月			1		23	3	1	1	54			4		1							
0歳																	1				
1歳			14	2	32	7	6	1	42		1	25		10					1		
2歳			7		37	6	11	3	5	2		11	1	23		4					
3歳			9	4	27	22	4	3		1		10		33		1					
4歳			5	12	21	9	4	5				5		40		1					
5歳			7	4	16	2	1	3				3		36		1					
6歳			2	5	22	3	2	6		1		2		17		1					
7歳			1	2	15	1						4		10							
8歳			2	3	7		1							6							
9歳					12			1				1		7							
5歳～9歳																			1		
10歳～14歳			2	2	30	2								4					1		
15歳～19歳				1	15																
20歳～				3	43	1	2	1			3			9							
20歳～29歳																5					
30歳～39歳																3					
40歳～49歳																					
50歳～59歳																4					
60歳～69歳															1	1					
70歳～																					
70歳～79歳																					
80歳以上																		1			

愛知県感染症情報

2004年第1週～第34週(平成15年12月29日～平成16年8月22日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	インフルエンザを除外(高病原性鳥インフルエンザ)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	202	37,701	2,564	7,195	28,082	9,428	1,204	2,386	4,170	93	114	6,767	53	6,653	20	1,056	12	16	181	0	0
愛知県 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	178	29,465	1,934	4,972	19,203	7,644	947	1,840	3,299	82	56	5,224	53	5,408	15	883	12	16	179	0	0
名古屋	70	70	11	14	1	24	8,236	630	2,223	8,879	1,784	257	546	871	11	58	1,543		1,245	5	173			2		
尾張東部	9	9	2	3	1	28	1,855	145	638	1,134	480	39	190	209	9	5	447	7	263	2	20			26		
海部津島	7	7	2	2	1		2,036	94	187	1,964	520	18	63	116	5		192		232		44		6	43		
尾張中部	4	4	1	1			1,006	25	78	813	180	8	97	52			170		91		25					
尾張西部	16	12	3	4	1	9	2,133	207	464	2,092	628	293	84	324	3	2	279	3	365		24	1		1		
尾張北部	9	9	2	3	1	18	2,832	251	605	1,277	799	48	218	305	8	6	407	3	634		32	3	7	1		
	6	6	1	2			1,109	89	559	1,690	663	23	97	275	3	3	328	2	276		46					
知多半島	6	6	1	2	1	6	1,060	101	276	657	340	16	105	159	2	1	156	3	352	1	2			4		
	7	7	2	2		27	1,701	293	209	1,691	652	67	234	247		1	290		571	2	11					
西三河南部	11	7	2	2	1	5	1,945	48	428	463	740	58	125	369	6	5	439	4	412	2	49					
	11	11	2	4	1	1	3,208	147	416	1,072	635	204	128	321	4	4	416	5	914		73			7		
	5	5	1	2	1	2	864	33	167	677	250	26	119	141			190	7	355		42					
西三河北部	8	8	2	3	1	58	2,967	126	274	2,211	611	64	144	243	38	28	511	8	560		409		1	34		
	3	3		1		2	414	38	74	396	127	22	44	43			65		58							
東三河南部	12	8	2	4	1	3	4,205	85	388	1,947	451	33	58	284	4		662	10	150	2	65	7		35		
	9	8	1	2	1	19	1,967	244	205	1,097	529	24	130	192		1	663	1	146	6	41	1	2	28		
東三河北部	2	2			1		163	8	4	22	39	4	4	19			9		29							

愛知県感染症情報

2004年第1週～第34週(平成15年12月29日～平成16年8月22日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	178	29,465	1,934	4,972	19,203	7,644	947	1,840	3,299	82	56	5,224	53	5,408	15	883	12	16	179	0	0
～6ヶ月	66	277	6	14	241	209	23	7	255	23		35		2		11					
～12ヶ月	53	616	53	23	1,181	491	55	37	1,914	11	5	346	10	36		12					
0歳																	5	3	1		
1歳	32	2,092	274	123	2,769	1,426	193	91	1,035	3	9	1,419	14	270		48			14		
2歳	8	1,947	298	229	2,034	1,253	157	123	74	2	5	1,061	6	459		35			10		
3歳	7	2,114	366	543	1,969	1,466	137	188	9	3	2	977	2	830	1	45			23		
4歳	4	2,528	316	972	1,815	1,314	143	274	4	1	5	691	6	1,119	1	45			20		
5歳	6	1,739	250	986	1,500	721	91	359		2	1	351	2	1,048		46					
6歳	2	1,342	104	678	1,030	335	51	262	1	6		155	2	533		22					
7歳		1,110	83	448	853	156	32	175	2	1	2	82	2	350		14					
8歳		966	48	266	630	84	15	126	1	1		32	1	249		9					
9歳		1,056	40	177	576	44	13	81	1	1	1	27	1	168		5					
5歳～9歳																				53	
10歳～14歳		4,275	50	276	1,286	76	17	79	2	1	2	32	3	209		23		2	36		
15歳～19歳		1,952	3	26	429	11	2	2			2	3	2	22		9			2		
20歳～			43	211	2,890	58	18	36	1	27	22	13	2	113			7				
20歳～29歳		2,465													2	116		4	2		
30歳～39歳		2,408													4	208		5	6		
40歳～49歳		1,051													2	54			4		
50歳～59歳		626													3	62		1	1		
60歳～69歳		455													1	70			4		
70歳～															1	49					
70歳～79歳		265																		1	
80歳以上		181																1	2		